



人と人との力 地域之力 東北の未来に

村山総合支庁ニュース

—Murasou News—

第188号 平成30年12月号

山形県村山総合支庁

「第21回全国農業担い手サミットinやまがた」開催



(全体会 開会式)

11月8日(木)、9日(金)の2日間にわたり、「第21回全国農業担い手サミットinやまがた」が開催されました。8日には、山形ビッグウイングにおいて全体会が開かれ、皇太子殿下御臨席のもと、優良経営体大臣表彰やパネルトークなどが行われました。また、夕方からは県内8地域で情報交換会が開催され、村山地域においても東南村山、西村山、北村山の3地域で、地域の農産物をふんだんに使った料理や地酒、そして地域の伝統文化等のアトラクションで全国各地から参加された認定農業者や農業関係団体の方々を歓迎するとともに交流を深めました。



9日には、県内32コース(各地域4コース)の現地研修会が行われ、県外からの参加者の皆様に、各地域の特色ある農業の現場を視察していただき、本県農業への理解を深めていただきました。
(農業振興課 023-621-8141)

大井沢小水力発電所運転開始!

県が西川町大井沢地内で建設を進めてきた「大井沢小水力発電所」発電開始のため、11月15日(木)に通電式を行いました。

この発電所は、大井沢地域へ農業用水や生活用水を運ぶ「大井沢堰」を活用した小水力発電施設です。大井沢堰は、一年を通して安定した水量を確保できることから、年間発電量は一般家庭86軒分に相当する27万1千キロワット時を見込み、小さい発電施設ながら、大井沢地域の全戸数をほぼ賄う規模となります。



現地通電式

東日本大震災を踏まえて平成24年3月に策定した「山形県エネルギー戦略」に基づき整備する小水力発電所としては、村山総合支庁管内で唯一の施設です。施設は西川町に譲渡され、今後は町が管理運営を行います。発電した電力は東北電力に売電し、収益を町の農業農村振興に資する公共施設の電気料金に充当します。大井沢地域で大切に守ってきた水路が、新たな発電エネルギーとしても活用されることで、地域振興に寄与することが期待されます。
(西村山農村整備課 0237-86-8310)

「東北中央道による地域活性化シンポジウム」開催



山形県知事あいさつ
(村山総合支庁長代読)

パネルディスカッションの一幕

左から、上坂克巳東北地方整備局副局長、石田東生筑波大学名誉教授、小林裕明山形新聞社執行役員論説委員長、佐藤洋詩恵かみのやま温泉古窯女将、坂川好則道の駅米沢駅長、佐藤孝弘山形市長、尾関憲一NHKエデュケーショナル事業推進室コンテンツ事業開発専任部長、本吉裕之東北芸術工科大学准教授

11月30日(金)、「東北中央道による地域活性化シンポジウム」がヒルズサンピア山形で開催され、商工・観光・建設の各関係者や一般県民など約400人が参加しました。基調講演とパネルディスカッションでのアドバイザを務めた筑波大学名誉教授石田東生氏は「道路の機能として人の心をつなぐことや風景との一体化などを重要と考えていきたい」と語られ、特別講演者・パネリストの東北芸術工科大学准教授本吉裕之氏から「高速道路での人をわくわくさせる仕組みづくり」、同じくNHKエデュケーショナル事業推進室コンテンツ事業開発専任部長尾関憲一氏から「みちを使って全国を巡っていくことによって達成される趣味」などが紹介されました。

パネルディスカッションには「道の駅米沢」の坂川好則駅長、「かみのやま温泉古窯」の佐藤洋詩恵女将などが加わり、交流人口の拡大や観光振興につなげる取組みなどが話し合われ、東北中央道による人・モノ・情報の流れの活性化方策を考える貴重な機会となりました。
(建設総務課 023-621-8408)

寒河江村山線「松沢橋工区」&東根長島線「長瀬工区」開通



11月2日(金)、東根市の主要地方道寒河江村山線「松沢橋工区」と一般県道東根長島線「長瀬工区」が全線開通し、現地で安全祈願祭と開通式典が行われました。

セレモニーには、国土交通省、県、市の関係者、近隣住民など約400人が出席し、安全祈願祭では、角湯県土整備部長、間木野東根市副市長らが神前に玉串を奉てん。続く開通式では、テープカット、くす玉開披後に、地元の長瀬小学校の児童たちによる「長瀬猪子踊り」と親子3代夫婦を先頭に、来場者が渡り初めを行い、全線開通を祝いました。

知事からのメッセージでは、「現在着々と整備が進んでいる東北中央自動車道「東根北インターチェンジ」とのアクセスが向上することより、東根温泉など地域の豊かな資源を活用した観光振興や地域の活性化に繋がるものと、大いに期待しております。」とのお祝いの言葉がありました。

(北村山道路計画課 0237-47-8666)

「むらやまの野菜料理フェア」開催！

村山総合支庁では、村山地域において古くから郷土の食材として親しまれ、生活や風土に根ざした「やまがた野菜」と、新たに産地形成を進めている「イタリア野菜」の利活用・消費拡大を図るとともに、仙台圏等からの観光誘客と交流拡大を推進するため、村山地域のレストラン15店舗において、「むらやまの野菜料理フェア」を開催しました。

11月9日(金)には、オープニングイベントとして、山形市のパレスグランデールにおいて、生産者、実需者、旅行業者等約50名参加のもと、同店の大場隆料理長と「アル・ケッチャーノ」の奥田政行シェフによる料理実演とともに、野菜ソムリエ上級プロの山口美香氏から「むらやまの野菜」の美味しさや特色・活かし方などを幅広く紹介いただきました。

(地域産業経済課 023-621-8432)



奥田シェフ
(オカヒジキとバジルペーストのオレキエッテ)

「ラ・フランス」カットフルーツ鮮度保持技術を普及しています！



カットフルーツの製造を実演

食べ頃の「ラ・フランス」の新鮮さをそのままに、芳醇な香りにとろける舌触りのおいしさを手軽に味わえる鮮度保持技術を、山形県農業総合研究センターが開発しました。この技術は鮮度保持液に3分間漬けるだけで、果実の色が変わらず、冷蔵保存で3日程度、品質を保持できる優れた技術です。

農業技術普及課では10月30日(火)、生産者、JA、ホテル・旅館業者などを対象に、鮮度保持技術を広く知ってもらうための説明会を開催しました。当日は約50名の参加があり、カットフルーツの製造実演と試食を行い、参加者からはこの技術に対する期待の声が多く聞かれました。今後とも、県産「ラ・フランス」のおいしさを届けるために、引き続き、技術の普及を図っていきます。

(農業技術普及課 023-621-8293)



右：鮮度保持液に漬けた「ラ・フランス」
左：漬けていない「ラ・フランス」
(共に前日カットしたもの)

「さくらんぼY字仕立て栽培研修会」開催

省力・軽労働なさくらんぼの栽培方法「Y字仕立て」を学ぶ研修会が、10月26日(金)に寒河江市箕輪地区で開催されました。「Y字仕立て」は、植付けから収穫できるようになるまでの期間が短く、熟練した剪定技術が不要で、樹高が低いため作業性に優れるなど、初心者でも取り組みやすく、生産者の高齢化や労働力不足にも対応した栽培方法です。

今回、新規導入を目指す23名が参加し、先進的に「Y字仕立て」に取り組む農業者から直接、栽培管理方法や「Y字仕立て」のメリット等を学びました。盛んに質疑が交わされ、参加者の熱意が感じられるとともに、近い将来のさくらんぼ経営を支える技術として、期待感の大きい研修会となりました。

(西村山農業技術普及課 0237-86-8287)



熱心にメモを取りながら質疑が交わされました

仙台勾当台公園で「仙台となり村」PR

北村山地域振興局では、管内市町と連携し、「仙台となり村」をキャッチフレーズに広域観光に取り組んでいます。この度、初めての取り組みとして、管内市町及び地域おこし協力隊とともに、11月4日(日)から7日(水)まで仙台市勾当台公園において「仙台となり村フェスタ」を開催しました。

期間中は公園内施設のライブラリーパーク内で「地域おこし協力隊活動を通じた北村山地域の魅力発信」と題したパネル展を開催するとともに、11月6日(火)は公園内広場にブースを展開し、特産品や作品の展示販売等、観光・物産・地域おこし協力隊のPRを行い、多くの仙台市民の皆様「仙台となり村」(山形県北村山地域)の魅力を発信しました。

(北村山総務課連携支援室 0237-47-8614)



国道347号「鍋越峠」地域交流フォーラム開催



平成28年度からの国道347号通年通行を契機として、宮城・山形両県の相互交流・広域連携の気運が高まっています。こうした動きを確固たるものとし、一層の推進と地域活性化の可能性を探る「国道347号「鍋越峠」地域交流フォーラム」を、11月9日(金)に大石田町虹のプラザで初開催しました。

「秘密のケンミンSHOW」番組制作プロデューサーの伊藤考宏氏から、番組制作から見える地域の魅力と県民性について講演いただき、パネルディスカッションでは宮城県加美町から尾花沢市を往復する自転車イベント「宮城山形ツール・ド・347」などの具体的な事例発表を交え交流拡大に向けた討論が行われました。北村山地域振興局では、今後とも両県の更なる交流及び連携推進に向けて取り組んでいきます。(北村山総務課連携支援室0237-47-8614)

「ICT活用工事に関する研修会」開催

県で取り組んでいる“ICT(情報通信技術)活用工事の普及促進”と“社会インフラの整備・管理を担う人材の育成”の一環として、11月29日(木)、山形市沼木の須川河川改修工事現場において、県・市町の職員と建設業技術者を対象とした研修会を開催しました。

人手不足が深刻化する建設現場において、生産性向上は喫緊の課題です。ICT活用工事は、従来必要としていた丁張り(現場に仮設する施工位置の目印)や施工作业中の測量等が大幅に削減されることから、建設現場の生産性向上につながります。

本研修では、ICT建設機械による施工デモンストレーション等を行いました。参加した20名は、効率的で高精度な施工を見学し、ICT活用のメリット等について理解を深めました。(河川砂防課 023-621-8228)



軽油引取税に係る全国一斉路上軽油抜取調査実施



10月17日(水)、村山総合支庁課税課と置賜総合支庁税務課合同で、路上軽油抜取調査を実施しました。山形市長谷堂地内の国道348号下り方面にて、トラックなどのディーゼル車を県警の協力のもと停止させ、燃料タンクからの燃料油の抜取りと給油状況などの聴取り調査を行い、サンプル軽油を18本採取しました。

ディーゼル車などの燃料として使用される軽油に、灯油や重油などを混ぜたもの等が不正軽油です。不正軽油の製造や販売、使用は、軽油引取税の脱税行為につながるだけでなく、大気汚染により県民の健康に重大な悪影響を及ぼす反社会的行為です。県内で不正軽油と疑われるものが発見された場合には、追跡調査を実施するなどして、不正軽油撲滅に向けて厳正に対処していきます。(課税課 023-621-8126)

“人と人のつながり”を大切に！

「山ベーグル&Coffee Stand」経営 佐藤 喬一 さん

さとう きょういち

佐藤 喬一 さん

紅葉した街路樹が美しい東根市街を東に進み、ログハウス風のかわいいお店「山ベーグル&Coffee Stand」を訪ねました。佐藤喬一さん夫妻が経営するお店です。佐藤さんは、24歳のとき家業である牛乳販売店を営む傍ら、村山市基点にパンとコーヒーの店を構えました。その後、ワークショップ、マルシェ、コンサートなど様々なイベントを企画・開催してきました。中でも、誰でも参加できるフリーマーケット『縁側ごろつき市』は7年目に入ります。コンセプトは「売る側も買う側も顔の見える関係」であること。人と人の顔が見える関係は食の安全・安心につながり、今、地域で希薄になっている“人と人のつながり”も生まれると言います。佐藤さんは「今までいろいろやってきたが、よかったことは“つながり”ができたこと。困ったときは声に出すと周りの人がサポートしてくれて、大変なことも出来てきた」と静かに話します。



今年度スタートした山形県の「若者支援コンシェルジュ」事業の“若者サポーター”でもある佐藤さんは、自身の経験から「背中を押してほしい」という人の支えになりたいと言います。



「ごろつきフェス」で野外コンサートに聴き入る来場者たち

先日、長井市で市民参加型の旧工場リノベーションを計画している若者の「人があまり来ない」という悩みには、まずは自分がやっていることを発信し、あえて待つことをアドバイスしたそうです。

佐藤さんは、お店もイベントも来場者の数で成功か失敗かを判断していません。出店がきっかけで、お客さんとのつながりができたら嬉しいと思っています。周りの人とのつながりを大切にして、サポートを得ながらやっていきたい・・・と。

東根市にこの店を開店して約2年半、今は大きなイベント活動を終え、村山市大久保の自宅に隣接する設計中の新店舗に夢を膨らませます。これからどんなことに挑戦していくのか目が離せません。

(子ども家庭支援課 023-627-1153)

外食時の「おいしい食べきり」全国キャンペーン実施中！

まだ食べられるのに捨てられてしまう食品、いわゆる食品ロス、全国で年間約646万トン発生しています。この量を1人1日当たりになるとお茶碗約1杯分(約139グラム)に相当します(平成27年度農林水産省推計)。特に宴会では食べ残しが多く発生しています。

そこで、忘年会や新年会が増える12月・1月に宴会時の食べ残し削減に向けたキャンペーンを実施しています。「おいしく残さず食べきろう！」を合言葉に宴会では右記の「宴会5箇条」を実践しましょう。

(環境課 023-621-8422)

宴会 5 箇条

- 1 まずは、**適量注文！！**
- 2 幹事さんから「**おいしく食べきろう！**」の声かけ
- 3 開始直後や終了前は、席を立たずに**しっかり食べる食べきりタイム**を設けましょう
- 4 **食べきれない料理は仲間内で分け合おう**
- 5 **それでも、食べきれなかった料理は、お店の方に確認して持ち帰りましょう**

12月は“納税推進強調月間”です！

＝ 県税・市(町)税の納付は安全・確実・便利な**口座振替**で ＝

村山総合支庁では、管内市町と連携して自主納税・納期内納付の推進に取り組んでいます。

そのひとつとして、県税・市(町)税の口座振替を推進しています。口座振替は一度手続きを行えば、毎回自動的に振替され、現金を持ち歩いて金融機関に向いたり、納付を忘れることもありません。

また、県税・市(町)税が納期限まで納付されない場合、財産を差し押える場合があります。納付できない事情があれば、納税相談を受付けますので早急に連絡をお願いします。



(例)タイヤロックによる車の差押え

詳しくは、納税課・市町担当課までお問い合わせください。(納税課023-621-8135)

ストップ！雪害事故

積雪量が多くなる冬期間は、例年除雪や雪下ろし作業中の事故が多く発生しています。

（昨シーズンの死傷者数 県内170名、村山地域65名）

除雪や雪下ろしを行う場合は、ヘルメットや命綱を装着し、2人以上で安全な作業に心がけましょう。また、除雪機による事故や屋根からの落雪にも、十分注意しましょう。

雪害事故防止に関しては、県ホームページ「災害防災情報」に《安全な雪下ろしガイド》を掲載していますので、ぜひご活用ください。

（総務課防災安全室 023-621-8234）

★安全な雪下ろしガイドはごちからご覧いただけます→



安全な雪下ろしのポイント

- ◇ヘルメット・命綱を装着
- ◇2人以上で作業
- ◇屋根の雪のゆるみに注意
- ◇はしごはしっかり固定
- ◇使いやすい除雪道具の使用
- ◇足場にはいつも注意
- ◇体調に気をつけ無理な作業はしない



除雪ボランティア募集



お年寄りや障がいのある方などにとって、雪かきは大変な作業です。北村山地域では、地域の住民がともに助け合う地域共助に加え、雪かきができず困っている人たちを助け、地域で支える「除雪ボランティア」の取組みが広がっています。

中学校・高等学校では、学校や生徒会、部活動などで集まった皆さんが除雪ボランティアとして活動しており、毎年数十人で参加している中学校もあります。

また、県内外の大学や企業の方々、さらには友好都市の皆さんが、広域的な除雪の担い手として管内各地で活躍しています。

県では、助け合える地域づくりをめざし、県内外から除雪ボランティア「やまがた除雪志隊」を募集しています。皆さんも身近なところで除雪ボランティアに参加し、地域を元気にしてみませんか。

（北村山総務課連携支援室 0237-47-8614）

道路除雪に御協力ください

◆ お 願 い ◆

- 除雪車には近づかないで！ 除雪車の周辺は、運転手の死角となり危険です。
- 道路に雪を捨てないで！ 道幅が狭くなり、歩行者との接触事故やスリップ事故の原因になります。
- 寄せ雪処理にご協力を！ 除雪後に宅地入口に残った雪は、各ご家庭やご近所で協力し合い、寄せ雪処理をお願いします。
- 流雪溝のルールを守りましょう！ 流雪溝に雪を入れるときは、地区で決められたルールを守りましょう。作業後は必ずしっかりとフタを閉めましょう。
- 峠の通過はチェーン装着を！ 峠道で大型車が立ち往生すると、渋滞の原因や除雪作業の障害になります。峠道は無理せず、また必要に応じチェーン装着をお願いします。

（本庁舎道路課 023-621-8193
西村山道路計画課0237-86-8404
北村山道路計画課0237-47-8667）



インフォメーション

油流出事故防止!

寒さが厳しくなり、灯油等を使う機会が増えると河川等へ油が流出する事故が増えていきます。

油が流出すると、水や土壌の環境汚染を引き起こすばかりでなく、オイルフェンスやオイル吸着マットで回収するなど、大掛かりな対応が必要となります。この対応に要した費用は原因者が負担しなければなりません。

▲油流出事故の主な原因

- ・ホームタンクからの小分けの際に目を離すなどの不注意
- ・除雪時にホームタンクや配管を破損



◎事故防止への効果的な対応

- ・ホームタンクからの小分けの際、その場を離れない
- ・除雪後のタンクの点検、配管場所がわかるような目印の設置

なお、事故発生時や発見時は最寄りの消防署、市町村または総合支庁に連絡してください。

(環境課023-621-8419、河川砂防課、建設総務課)

冬の省エネ県民運動(12/1~3/31)

地球温暖化防止に向け、無理のない範囲で省エネの取り組みをお願いします。

運動期間中は、次のような企画があります。県のHPに詳しく掲載しています。是非ご応募ください。



©YOC

- 省エネ川柳・標語コンテスト…省エネ・節電にまつわる川柳、標語を募集します。
- 家庭のアクション…家庭での省エネの取り組みを報告すると、抽選で景品が当たります。室温20℃を目安とした適正な暖房使用と室温に適した服装等の取り組み(ウォームビズ)を実践しましょう。



〈検索キーワード〉

「冬の省エネ 山形県」

(環境課 023-621-8425)

冬はノロウイルスによる食中毒に注意!

ノロウイルスによる食中毒は年間を通して発生しますが、特に冬に多く発生します。家庭においてノロウイルス食中毒を予防するためには、食品の中心部までしっかり加熱(85℃、90秒以上)することと、適切な「手洗い」が重要です。

《〇×クイズ!》

- 問1 手洗いのポイントはハンドソープをよく泡立てること、その後流水で十分にすすぐことである。
- 問2 親指の周りや指の間は、普通に洗っても洗い残しはほとんどない。



● 最も洗い残ししやすい部分
● やや洗い残ししやすい部分

手洗いのタイミング

- 調理や盛り付けの前
 - 食事の前
 - トイレの後
 - 帰宅したとき
- ☞ ハンドソープで2回手洗いを!

答: 問1 ○、問2 × (上図のように、親指の周りや指の間は、洗い残しが多いところです。意識して手洗いを行いましょう!)

(生活衛生課 023-627-1185)

みんなで考えよう! 「お酒」とのつきあい方

お酒は、私たちの生活に豊かさと潤いを与えるものです。

しかし、飲みすぎると肝臓の病気やアルコール依存症などの病気を引き起こすので注意が必要です。

日本人の「節度ある適度な飲酒」の量は純アルコールで約20g。

ビール(5%)なら中びん(500ml)1本、焼酎(25%)ならコップ半分(100ml)、清酒(15%)なら1合(180ml)が目安となります。

約20gの純アルコールの分解にかかる時間は、男性4時間、女性5時間が目安!

※時間はあくまで目安です。睡眠中、分解速度は遅くなり、性別・年齢・体重・体質・体調によっても時間は変わります。

年末年始はお酒を飲む機会が多くなります。節度ある飲酒を心がけましょう。ご自身や周りの人の飲酒問題でお困りの方は、右記担当までご相談ください。



〔保健企画課 023-627-1184〕

あとがき

本格的な雪の季節になりました。心も体も身の周りも、寒さに負けない備えをして、スキーや温泉、あったかグルメなど、1年ぶりに巡ってきた冬を楽しみましょう!

■発行元■
村山総合支庁総務企画部
総務課企画調整担当
Tel. 023-621-8104
Fax. 023-624-3056

村山総合支庁ニュースは、山形県のホームページからも御覧いただけます。

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/sogoshicho/murayama/301001/murayamanews.html>

